防災だより
NO.4 (2012. 9)

■ 桜ニュータウン自主防災組織
知識普及部会

平日の昼間人口は　アンケート調査の結果から

６月に実施した「アンケート調査」にはご協力いただき、ありがとうございました。その集計結果はこの防災だより９月号といっしょにお届けします。今回のアンケート調査は、桜ニュータウンが災害に対して一番弱い、平日の昼間の人口などの実態を知ることを目的に行いました。

その結果をみると、回答率は68％で平日昼間の人口数は414人、そのうち61歳以上が324人と78%を占めています。また、414人のうち防災活動に参加が可能な住民は149人でした。一方住災害時の避難の際、支援を希望する住民は72人で、高齢者世帯や一人暮らし高齢者のほかに比較的若年層に支援希望者が見られることが、今回の調査で明らかになりました。

また、調査票４「桜ニュータウン　今の状態」では、消火器と火災報知器の設置率の低さが目立ちました。大地震が起こり電気・水道が止まり、道路が通れなくなることを想定すると、自分の家から火災を出さないためにも消火器などの重要性は増すので、設置しやすい環境作りを進める必要があります。

災害時支援希望者を対象に　防災訓練の実施

このようなアンケート調査の結果をもとに、９月１日に行った自主防災組織の最初の防災訓練では、平日の昼間に大地震が発生したとき、避難時に支援を希望している住民72人を対象に、本人宅へ出向き安否確認を行う訓練を行いました。

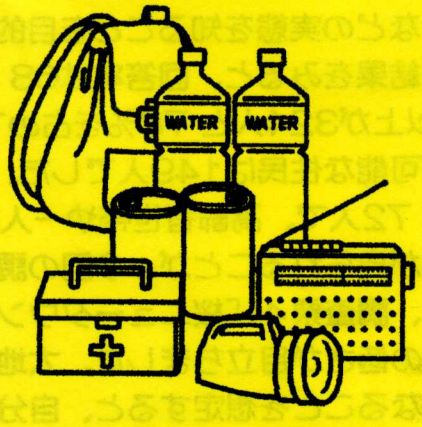
当日は、午前９時に地震（震度６）が発生したという想定で、住民が広岡交流センターに参集（92人）し、災害対策本部の設置後、参集者が２人一組で避難時の支援希望者宅へ出向き、安否確認と現在の状態などを確認する作業（72人全員の安否確認に要した時間は50分）を実施しました。

その後、当日の参加者全員で安否確認作業で気付いた　①玄関のチャイムが鳴らない家が多かった　②玄関の足元は整然としているが、壁にかけてあるガラス製の額縁が落ちると危ない　③難聴者には「ボード」を用意する必要がある　④地震など緊急時の情報伝達手段として、スピーカーを載せた車での巡回、防災掲示板の活用、携帯メールなど、あらゆる手段を使って住民に伝達すること、などについて討論を行い、10時40分に災害対策本部を解散しました。

● 家庭での地震対策（３）　命を守るための「備蓄」

大震災が起こったとき、例え家が無事であってもライフライン（電気・ガス・水道など）が止まってしまったり、輸送活動の停滞で食料品などの物資が入手できない事態が予想されます。外部からの支援が受けられるまでの最低３日間は、命を守るために自分たちの力で切り抜けなければなりません。

そのためには、外部からの支援が受けられるまでの間（最低３日間）は、自宅での生活が可能なように、必要な物資を備蓄するように心掛けましょう。



1．飲料水　１人１日３リットル
　家族が３日間生活できることを目安にに用意しておきましょう。一度に用意することが大変な場合は、水・お茶・清涼飲料水をちょっと多めに用意することから始めましょう。

2．食料品　レトルト食品・缶詰・インスタント食品・梅干しなど
　非常食を用意することも大事ですが、日頃使用しているものを少し多めに用意することから始めましょう。

3．燃料等　卓上コンロ・カセットボンベ・固形燃料など
　飲料水や食料品のほかにこれらの物があれば、食べられる食品の種類が増えます。

4．救急医薬品　絆創膏・包帯・滅菌ガーゼ・常備薬など
　医療の支援が受けられるまでの間に必要な物を用意しておきましょう。

5．その他　携帯ラジオ・懐中電灯・ティシュペーパー・ラップフィルムなど

もちろんこの外に、万が一の避難が必要なときに備え、「非常用持出品」の用意とともに、季節に応じた衣類などを併せて準備しておくことも心掛けておきたいものです。

◆ つくば市総合防災訓練のお知らせ

つくば市では、９月30日（日）午前９時から11時30分までの間、つくば市付近を震源とする直下型地震を想定し、消防・警察・防災関係機関と住民が一体となった総合防災訓練を市役所の防災スペースで行います。

見学は自由ですので参加して下さい。詳細については後日市役所から「お知らせ」が来る予定です。